

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103946
法人名	有限会社 ベターライフ・U
事業所名	四葉のクローバー
所在地	愛媛県松山市石風呂町甲1014-1
自己評価作成日	平成28年6月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日課として散歩に取り組んでいます。天候・気候の良い日は毎日のように外へ散歩に出かけてます。車いすの方も、ご自分で歩ける方も、職員と一緒に数人がまとまって散歩されます。寝たきりにならぬように、日常の暮らしが続けられるように、私どもができることをお手伝いします。食事については栄養の偏りが起こらないように食事の献立を作っています。また、食事は皆でテーブルを囲み食事をします。独りで食事をとることが無いようにしています。医療については、それぞれの主治医と連携して適切な医療を受けることが出来るようにしています。職員は社内・社外を問わず研修に積極的に参加して、介護技術や認知症に対する知識、人間力、一般的な知識を深めるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●松山まつりには、職員が地域の方達の連に入り一緒に踊っている。地域の盆踊り大会には、利用者と一緒に参加して、車いすの方も踊りの輪に入って楽しんだ。秋祭りには、神輿や獅子舞の訪問がある。年末の餅つき大会には、近隣の方も誘って地域の方と利用者の交流を支援している。
●昨年度は、事業所目標に接遇を採り上げ、コミュニケーション能力の向上を目指して、職員で意見を出し合い実践に取り組んだ。外部研修の場で、職員が事業所の取り組みを発表した。月1回のミーティング時には勉強会を行っており、又、県外での研修にも参加できるよう、法人が費用面でも協力してくれている。法人主催で事業所やユニット単位の食事会が年2～3回ある。
●調査訪問時、利用者が他利用者の車イスを押して、職員と一緒に散歩に出かけて行く様子が見られた。悪天候の日以外は毎日のように、ほぼ全員の方が散歩できるよう支援している。季節ごとの花見物やいちご狩り、ぶどう狩り、魚釣り等、計画を立てて、ほぼ毎月全員で出かけられるよう支援している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 四葉のクローバー

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 濱崎 秀己

評価完了日 28年 6月 30日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・新しく職員が就業するときは必ず理念の考え方を説明している。 ・全職員が理念カードを持っており理念に統一した支援に繋げるよう朝の朝礼時唱和を行っている。また、理念に沿った個人目標を毎日立てている。	
			(外部評価) 法人理念である「健康・愛情・幸福・希望」を額に入れて、玄関に掲示している。法人の年度目標に沿って、管理者は、事業所目標を「プロフェッショナルとしての責任を果たそう」と決めており、「常に努力していく」ことの大切さを職員に話してけん引している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・毎日散歩へ行っており、地域の方と挨拶を通して、お話やペットに触らせて頂けている。 ・地域行事の盆踊り、松山まつりへの参加や、ホームでの運営推進会議・消防訓練などにも参加して頂けている。今後益々参加して頂けるように努力していきたい。	
			(外部評価) 松山まつりには、職員が地域の方達の連に入り一緒に踊っている。地域の盆踊り大会には、利用者と一緒に参加して、車イスの方も踊りの輪に入って楽しんだ。秋祭りには、神輿や獅子舞の訪問がある。年末の餅つき大会には、近隣の方も誘って地域の方と利用者の交流を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・2ヶ月に一回の運営推進会議にて資料を作り、ホームや認知症について説明させて頂き、消防訓練などで地域の方たちに理解や支援方法をお知らせするようにしている。 ・消防署や警察署に講習に来ていただき、講義をしていただくとともに、認知症への理解や支援方法をお知らせするようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・家族様や地域の方の意見を取り入れ、サービスの向上に努めている。新しく出来た行楽地なども教えて頂けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議には、自治会役員や家族の参加があり、利用者も参加することがある。会議では、利用者や活動の状況報告、行事予定や事例紹介等を行い、意見交換を行っている。時には、避難訓練を併せて行うこともある。地域からの参加者は、地域行事等の情報を教えてくれる。</p>	<p>さらに、地域のいろいろな立場の方に会議参加を働きかけ、理解・協力者を増やし、又、意見や感想等を聞きながら、さらなるサービス向上の取組みにつなげてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・市町村担当者にも運営推進会議に参加して頂き、ホームでの現状報告を行い、協力関係を築いている。日頃から地域の方や包括の方などとの協力体制にも取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時に、地域包括支援センターや市の担当者からテーマに沿って意見やアドバイスがある。小学生の体験学習の訪問が年に数回あり、専門学校、短大等の介護実習生を受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・身体拘束は行っていない。勉強会を開き、身体拘束への知識、理解を高めている。また、施錠した時は記録に残すようにしている。やむおえない場合は家族様と相談を行うが、拘束せず安心して生活頂けるようケアに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、内部研修等で「身体拘束」について学んでいる。調査訪問時、玄関のドアは開放されており、各ユニットのドアには鈴を付け、開閉時に鳴るようにしていた。ベッドからの立ち上がり時、転倒の心配がある利用者には、畳部屋に布団を敷いて対応したり、センサーを設置して対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・定期的に虐待防止の学習会を開き、虐待への知識、認識を高めている。上司に報告できる環境づくり、目安箱なども設置している。また入浴時には身体に新しい傷が無いか確認し職員同士で指摘しあえる様な雰囲気を作る様心掛けている。難件は、全員の共通の課題とし、個人のメンタルや介護負担の増加を減らすようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・社内勉強会や外部研修にて学ぶ時間はあるが、該当される方がいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・契約に関しては利用者様同席のもと社長、管理者、リーダーが十分な説明を行い、理解して頂けるように努めている。何か不安な事があれば、いつでも連絡できる体制も出来ている。本人、家族に施設見学をして頂くようお願いしており、現場を確認して頂くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・毎月のお手紙や面接時にご要望をお聞きしている。アンケートBOXを設置し家族様の意見を傾聴出来るように努めている。 (外部評価) 家族来訪時には、本人の様子を報告して意見や要望を聞いている。毎月、個々の担当者が日々の状況を手紙に書いて知らせている。ユニット別の季刊誌には、行事や外出の様子、職員紹介、写真を多く載せている。クリスマス会や餅つき大会等の行事時には、家族にも案内しており、エプロンを持って準備段階から参加する家族もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・朝礼時やMT時に社長や管理者に報告、連絡、相談が出来る、通常業務時にもリーダー等に報告、連絡、相談が出来る環境が整っている。また、個人面談がいつでも出来る環境が出来ている。	
			(外部評価) 昨年度は、事業所目標に接遇を採り上げ、コミュニケーション能力の向上を目指して、職員で意見を出し合い実践に取り組んだ。外部研修の場で、職員が事業所の取り組みを発表した。月1回のミーティング時には勉強会を行っており、又、県外での研修にも参加できるよう、法人が費用面でも協力してくれている。法人主催で事業所やユニット単位の食事会が年2～3回ある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・希望や有休を管理者が考慮してシフトを決められ、やりがいを感じながら働けるような環境にあり、代表者も勤務状況を知るようになっており努力や実績を把握している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・研修参加費も支給されることから研修に参加しやすい環境となっており、MT時に報告して情報を共有している。会社内外の研修の案内が定期的に届いており、働きながらスキルアップも目指している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ・近くの施設と合同で研修開催や外部研修に参加することで同業者との交流する機会があり、情報収集等している。また管理者はGH連絡会に参加している。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・施設の見学、家族様の話を伺う事で安心を確保している。全職員がアセスメントに目を通し、気づいたことを記録に残し、情報を共有しケアや支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・契約時に家族様から入居前の生活状況や要望を聞き、意向にそえるよう心掛けている。不安な事は説明にて安心へ繋げている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・情報収集を担当者が管理をし担当スタッフが中心となり本人様、家族様の要望をくみとり、ミーティングで話し合いを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・本人の意向も伺いながら孤立することないよう他者との関係を築き三度の食事やおやつ、水分補給時は全利用者がテーブルを囲むようにして良い関係が築けるようにしている。また、出来る事を続けて頂き、出来ない事の見極め支援を行って残存機能を大切にし、よりよい関係づくりを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・面会に来られると話しやすい環境を整い、毎月の手紙や面会時には施設での様子を伝え、本人様との関係をよりよいものにするように支援している。ケアプランの更新では要望を伺い共に支えていく関係を作るように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・家族様の了解を得た上で面会や電話での交流がある。面会時間は決められてないので気軽に来所できる環境であり、居室での写真撮影も行う事で喜ばれている人もいる。慣れた美容室や病院へ家族様と行かれています。 (外部評価) 友人や遠くに住む家族の訪問があると、一緒に写真を撮り、居室に飾っている。歌の好きな利用者が多く、食事前の口腔体操後に利用者の希望を聞きながら、懐かしい唱歌と一緒に歌うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・利用者同士の関係で席替えをしたり、散歩のパートナーを考えている。外出行事やレクリエーションで関わり合いが持てるよう考慮し、トラブル発生時は不愉快な思いのないよう仲裁にはいり孤立しないよう利用者様それぞれの性格を理解して支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・病院や他施設へ入院、転居されても、施設長や管理者が面会へ行かせて頂いたり、利用者や家族との関係を大切に出来ている。葉書を退所された後も送らせて頂いている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・全ての希望には添えないができる範囲で支援している。本人様の発言は記録に残すようにして今後の支援に役立て、本人様の気持ちをくみとるようにしている。 (外部評価) センター方式のアセスメント様式を用いて暮らしの支援の希望、意向の把握に取り組んでいる。利用者別に「日課計画表」を作成してケアの統一を図っている。日々の個別記録には、利用者の言葉をそのまま記入している。調査訪問日の昼食時、利用者が選べるように2種類のドレッシングを用意していた。お茶の時間の飲物や朝の洋服選び等、利用者が選んだり決めたりできるような場面作りを行っている。	利用者一人ひとりの馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと等、暮らし方の希望、意向の情報を集積、共有してその人らしい暮らしの支援につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・アセスメントから生活歴、病歴を把握している。日々のコミュニケーションから知る事もあり、家族様面会時にお話を伺い職員間で情報を共有し合い、生活、なじみの暮らし方などの把握に努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・食事や体操、散歩時等は一緒にしているがその日の体調に応じて調整している。日誌にしっかり記録で残し現状の把握に努めている。出来る事、できないことも把握し統一した支援に努め普段と違う事は記録に残すようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・家族様には月末のお便り、面会時、電話で意見や要望を伺っている。ご本人には担当者が話を伺い、日々の生活で困っていることや支援しなければならないことをミーティング時に話し合い、計画を作成している。日々気づきがあれば、その場で改善するようにしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の日々のケアについて、職員個々に意見を書き出して、担当者に提出し、担当者と計画作成担当者が話し合っ て計画を作成している。介護計画は、日々の介護記録に差し込み、計画に沿った支援や記録ができる仕組みを作っている。月1回、職員で話し合っ てモニタリングを行い、3ヶ月毎や状態変化時に見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・実践結果や気づいたこと、本人の言動を記録に残し、職員間で情報を共有しながら次回の介護計画に役立てている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・ニーズに対して職員や家族様と相談し、そのニーズにあった支援やサービスが出来るよう心掛けている。大きく状態が変化すれば、すぐにプランの変更又は、改案を記入しそれに取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・ボランティア・音楽会・地域のお祭りやお神輿見学などができるように支援している。近くの小学生との交流会も実施している。地域の夏祭りに参加をされ、行事を通じて季節を楽しむことができるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ・小さなことでも気が付いたことはかかりつけ医に報告し、指示を仰いでいる。夜間も連絡がすぐにとれる体制が出来ている。本人様や家族様の希望するかかりつけ医に受診に行かれている方もいらっしゃる。何かあった時は担当医へ手紙を書き関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 不穏等がある場合、本人の状態をかかりつけ医に報告しながら、職員も不穏の原因を探ったり、対応方法を勉強して、総合的な支援に取り組み、減薬や短期間の内服に留める支援を行っている。歯科は、訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) ・ささいなことでも相談し不安な様子があればみて頂いている。職員にNSがいるので相談することができる。ホームDr往診時NSが事前に情報収集しているのもその時に報告している。適切な受診や看護を受けれる環境にある。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ・入院時はサマリーを作成し連携が図れるようにしている。上司等状況を把握しに病院へ行きスタッフに報告している。担当者とも連絡も取りやすく情報収集出来やすい環境作りを行っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・契約時より重度化や終末期に向けた方針について説明し、ご理解いただいている。事業所での出来る事できない事について家族様と話し合いを行っている。	
			(外部評価) 現在は、利用契約時に、重度化した場合について家族等と話し合っており、現在、半数の方は特養等の他介護施設に申し込んでいる。事業所では「看取り指針」を整備し、管理者や職員は「看取り介護」の外部研修に参加する等して、体制作りをすすめているところである。管理者は「本人や家族の希望があり、状況によっては支援する事もある」と話していた。又、職員は「看取りまで支援してみたい」と話していた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・ミーティング時にAEDの使用方法や心肺蘇生の訓練を定期的に行っている。勉強資料の中にも応急手当や初期対応として学ぶ機会があり全職員と一緒に学んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・利用者様も参加し、実際に起こりうる設定の訓練になっており、全職員が参加する事で新たな問題点があれば考えるよい機会となっている。また、水・食糧・紙おむつ等の備蓄を定期的に確認し備蓄品の改廃に努めている。 (外部評価) 運営推進会議と避難訓練を併せて行った際には、地域の方や家族にも参加してもらった。又、会議時には、地震や津波の災害対策等について話し合ったり、「事業所を災害時の一時避難場所として利用できる」ことを伝えている。管理者は今後、災害時は利用者だけでなく、近隣の方の避難方法も会議等で一緒に話し合っていくことで、協力体制を築いていきたいと考えていた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・馴れ馴れしい口調にならないよう気を付け、不適切な対応があれば注意するなどしてその職員が気づくようにしている。施設長や管理者の耳に入った場合でもすぐに伝えられ注意しあえる環境である。 (外部評価) 週3日は、業者が立てた献立で食材が届き、他の日と朝食は、ユニット別に職員が献立を立て買い物に行き、調理している。定期の健康診断結果をもとにして、利用者には不足しがちな栄養素を把握し、食材を選んでいる。日曜日の昼食は、利用者の「希望メニューの日」で、利用者の中には、料理の本を見ながら楽しみに決める方もある。調査訪問時には、下膳する利用者の様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・本人の思いや希望に耳を傾け希望に添えられるよう努力している。自己決定の場を設けられるように努力しているが、返答が難しい方には短く分かりやすい問にして、いろいろと選択して頂けるよう工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・平日は散歩や体操、入浴などがあるが、本人様のペースを大切にして安全面を優先し、その方のペースに合わせている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・その人の好みなど聞き、その人らしい身だしなみができるよう洋服はご自分で選ばれ季節に合わない服装の時は職員が声掛けを行っている。2ヶ月に1回散髪などしている。男性は髭剃り、女性は化粧をされる方、毎日くしを使って髪を整えている方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・日曜のお昼は希望メニューとなっており、利用者様一人ひとりに伺っている。祝い時にはお寿司など楽しめるよう季節の旬の野菜を味わって頂き季節を感じて頂けるように工夫している。毎日の献立が分かるようにボードに記載している。また、食後はご自分が使った皿は下膳して頂いている。	
			(外部評価) 週3日は、業者が立てた献立で食材が届き、他の日と朝食は、ユニット別に職員が献立を立て買い物に行き、調理している。定期的健康診断結果をもとにして、利用者には不足しがちな栄養素を把握し、食材を選んでいる。日曜日の昼食は、利用者の「希望メニューの日」で、利用者の中には、料理の本を見ながら楽しみに決める方もある。調査訪問時には、下膳する利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・食事は個人に合わせて提供している。栄養バランスは管理栄養士の作成したメニューなどを参考にしている。味付けは薄味を基本として栄養バランスを確保できるように努力している。また、生の野菜を摂って頂けるように工夫している。水分は食事中だけでなく散歩後、入浴後、10時、15時と用意し飲んで頂けるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・1日3回の口腔ケアを基本とし、個人に合わせて仕上げのお手伝いをさせて頂いている方もいる。また口腔状態がひどければ歯科往診依頼して口腔状態を保ち週1回に義歯洗浄剤で清潔を保っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・排泄のリズムが身につくよう決まった時間に声掛けや誘導を行い排便、排尿チェックなどパターンを理解、観察に努め支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>カンファレンス時に、個々の紙パンツやパッド使用の必要性や適切性について話し合い、一人ひとりのその時々状態に合った支援に取り組んでいる。状態が改善して、紙パンツから布パンツに変更となったような事例もある。現在、日中は、全員の方がトイレで排泄できるよう支援している。自分でパッド等の始末をする方もあり、トイレの中には、新聞紙と汚物入れを設置している。トイレのドアに、表裏に赤い紙に「入ってます」青い紙に「あき」と書いた札をぶら下げてあり、利用者が使用している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・毎日の体操や散歩、食事ではヨーグルトや低脂肪乳を飲むなど自然排便を促している。また、食物繊維の食材を多く使用するよう努力している。便が出にくい時は腹部マッサージや主治医に報告して指示を仰いでいる。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・入浴順番でトラブルにならないように調整しており職員の都合で変更しないよう個々に応じた入浴の仕方を支援している。また、入浴を楽しめるように感じて頂く様な方法や介助を行なっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日曜日以外は毎日お風呂の準備をしており、個々に週3回入浴を基本に支援している。浴槽のまがしが困難な方は、本人の状態により二人介助で浴槽の出入りを支援したり、足浴しながらシャワーを浴びられるよう支援している。季節によって柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状態に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・午前中はラジオ体操や散歩を生活習慣としている。その日の体調や状況に応じ対応を行い、午後からは自由に過ごして頂く。本人の傾向により、昼夜の逆転に繋がらないように塗り絵、貼り絵、合唱などして離床時間が長くなるように促している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・処方箋をファイルしており全職員がいつでも確認できるようにし、薬の変更や症状の変化の情報は記録に残している。服薬ミスのないように薬BOXに個数を記入し間違えないように努めている。また、薬で分からない事があれば薬剤師の人に伺っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・一人ひとりの生活歴や力を把握しその方に応じたお手伝いや出来る事で日々を過ごされるようにして頂いている。一人の方の好みに偏らずテレビチャンネルを変えるなどもしている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・買い物同行や外出行事はもとより、普段も天気が良ければ散歩をしに出かけるようにしている。外出行事や近所へのドライブも毎回同じにならないように工夫している。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者が他利用者の車イスを押して、職員と一緒に散歩に出かけて行く様子が見られた。悪天候の日以外は毎日のように、ほぼ全員の方が散歩できるよう支援している。季節ごとの花見物やいちご狩り、ぶどう狩り、魚釣り等、計画を立てて、ほぼ毎月全員で出かけられるよう支援している。さらに、時には家族も誘って一緒に楽しむような機会を作ってはどうか。又、利用者一人ひとりの行きたいところや懐かしい場所等も探り、一緒に出かけるような取り組みも工夫してはどうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・ご自分でお金の管理が出来る方は毎月決まった小遣いをもたらしている方もいる。希望のものがあれば買い物時に職員と外出して購入されている。管理も出来ているが、持っている事で安心感や欲求を満たしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・家族様との関係が不快にならないようご本人様が希望あれば自由に電話をする環境にある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>・玄関には花や季節に応じたオブジェを飾っており、利用者、家族様に季節を感じて頂けるようにしている。リビングには観葉植物や飾り物を置き、廊下は通行しやすい空間を保つ。居心地よく過ごせるよう工夫している。また、悪臭、直接日光等、窓を開けたりやカーテンをしたり温度調節を行い居心地良い空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間には、観葉植物を飾り大型テレビの前にソファを並べている。調査訪問日の昼食後、自分でテレビを点けてソファに座って過ごす方がいた。西側の窓には、遮熱フィルムを貼り、日射しと暑さ対策を行っている。「トイレ」と書いた紙を立体的に貼り、利用者がトイレの場所が分かるようにしていた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>・思い思いに過ごせるよう距離感を保ちリラックス出来る環境を整えている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>・今は使い慣れた物を持って来られる方は少ないが、馴染のあるぬいぐるみや写真を持ち込まれる方もいる。各居室にコルクボードがあり行事の写真を貼ったりと工夫して家族様もみて帰られることもある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入り口には、色とりどりの長めののれんを掛けている。各居室にあるコルクボードには、家族写真等を飾っている。カレンダーは、家族が持参したり、職員が準備して好みのものを選んでもらっている。受診日に印を付けている利用者があった。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>・その人の残存能力をいかし、その人の安全かつ出来るだけ自立した生活がおくれるように工夫している。ダンス、テレビ、ペット等にて自立度に合った生活が送れるよう工夫し情報共有を行い、出来る所は頑張ってもらって頂き難しい所は介助しさせて頂く。</p>	